

# 家計調査 平成20年7～9月期平均結果の概況

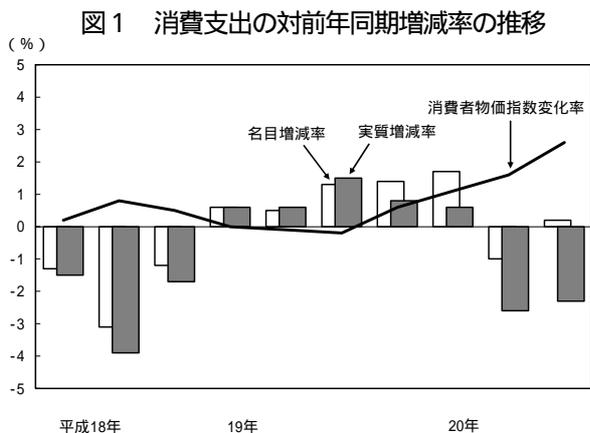
## - 家計収支編（二人以上の世帯） -

### 家計収支の概要

#### 1 消費支出は2期連続の実質減少

平成20年7～9月期の二人以上の世帯（平均世帯人員3.13人、世帯主の平均年齢55.6歳）の消費支出は、1世帯当たり1か月平均290,318円で、前年同期に比べ名目0.2%の増加、実質2.3%の減少となっている。

最近の消費支出の動きを対前年同期比でみると、平成20年4～6月期は名目実質ともに減少となっているが、20年7～9月期は名目では増加、実質では減少となっている（図1）。



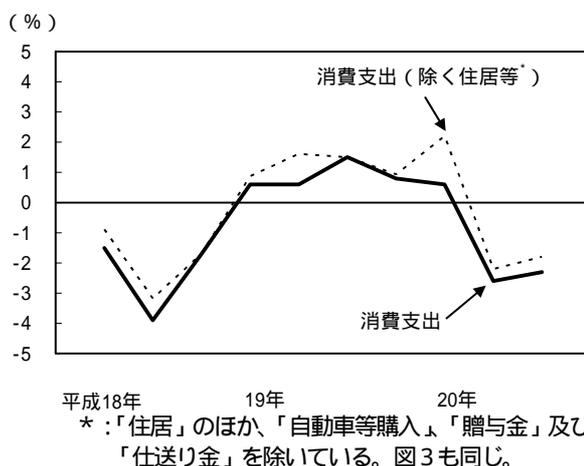
(注) は1～3月期、 は4～6月期、 は7～9月期、 は10～12月期を表す。以下同じ。

また、消費支出（除く住居等<sup>注1</sup>）についてみると、平成20年7～9月期は前年同期に比べ実質1.8%の減少となっている（図2）。

注1) 「住居」のほか、「自動車等購入」、「贈与金」及び「仕送り金」を除いている。これらの見方については、「家計調査の結果を見る際のポイント」(下記URL)No.4を参照されたい。

<http://www.stat.go.jp/data/kakei/point/index.htm>

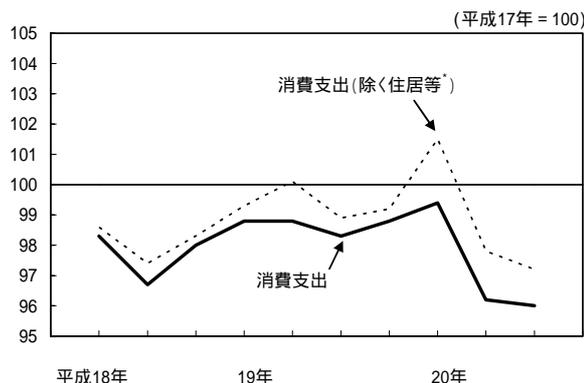
図2 消費支出の対前年同期実質増減率の推移



季節調整済実質指数で消費支出の足元の動きをみると、平成20年7～9月期は前期に比べ実質0.2%の減少となっている。

また、消費支出（除く住居等<sup>注1</sup>）についてみると、平成20年7～9月期は前期に比べ実質0.6%の減少となっている（図3）。

図3 消費支出（季節調整済実質指数）の推移



2 その他の消費支出、食料などが実質減少に寄与

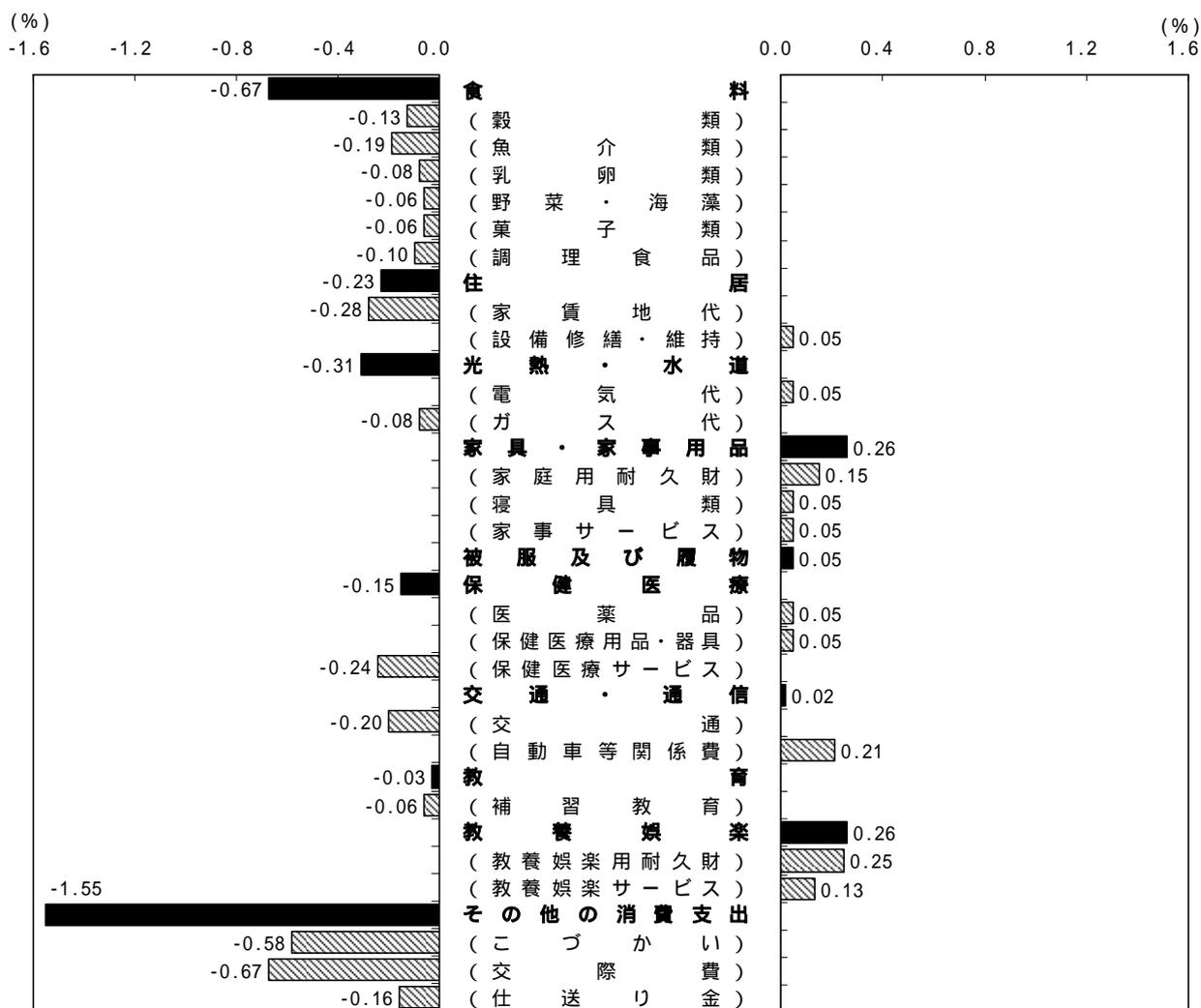
平成20年7～9月期の消費支出の対前年同期実質増減率に対する寄与度(%)を費目別にみると、交際費(-0.67)及びこづかい(-0.58)を含む「その他の消費支出」(-1.55)のほか、魚介類(-0.19)及び穀類(-0.13)を含む食料(-0.67)、ガス代(-0.08)を含む光熱・水道(-0.31)が消費支出の減少に大きく寄与した。

また、家賃地代(-0.28)を含む住居(-0.23)

保健医療サービス(-0.24)を含む保健医療(-0.15)、補習教育(-0.06)を含む教育(-0.03)も減少に寄与した。

一方、エアコンディショナなどの家庭用耐久財(+0.15)を含む家具・家事用品(+0.26)のほか、テレビなどの教養娯楽用耐久財(+0.25)を含む教養娯楽(+0.26)、被服及び履物(+0.05)、交通・通信(+0.02)は消費支出の増加に寄与した(図4)。

図4 消費支出の対前年同期実質増減率に対する費目別寄与度

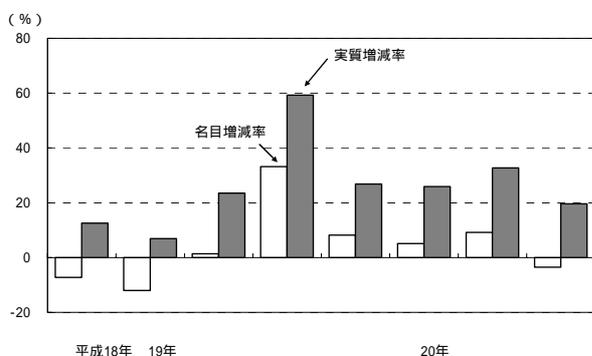


(注) 1. 平成20年7～9月期  
 2. グラフ中の黒棒の部分は10大費目を表す。  
 3. 「その他の消費支出」、こづかい、交際費及び仕送り金の増減率の実質化には、消費者物価指数(持家の帰属家賃を除く総合)を用いた。

### 最近の家計消費の特徴

1 教養娯楽用耐久財への支出の増加  
 テレビなどの教養娯楽用耐久財の動きをみると、平成20年8月に北京オリンピックが開催されたこともあり、20年7～9月期は、前年同期に比べ実質19.6%の増加となっている。また、平成15年4～6月期以降22期連続して実質増加となっている（図5）。

図5 教養娯楽用耐久財の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移

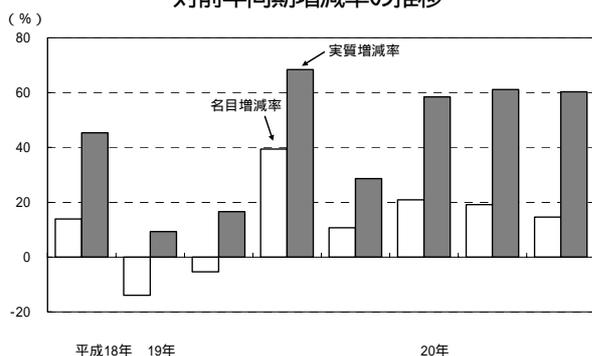


教養娯楽用耐久財の中の主な品目の動きは次のようになっている。

#### テレビ

テレビは、薄型テレビの販売が引き続き好調なこともあり、平成20年7～9月期は前年同期に比べ実質60.3%の増加となっている。また、平成15年4～6月期以降22期連続して実質増加となっている（図6）。

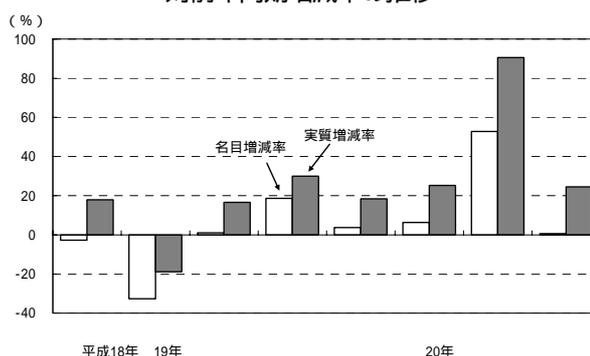
図6 テレビの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



#### ビデオデッキ

ビデオデッキ<sup>注2</sup>は、平成20年7～9月期は前年同期に比べ実質24.5%の増加となっている。また、平成19年4～6月期以降6期連続して実質増加となっている（図7）。

図7 ビデオデッキの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移

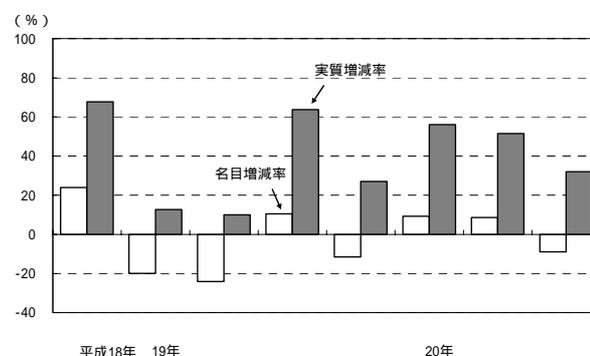


注2)「ビデオデッキ」とは、テレビに接続して映像の録画・再生に使用するもので、ビデオテープレコーダーのほか、DVDレコーダー、DVDプレーヤー、HDDレコーダーなども含む。

#### カメラ

カメラは、平成20年7～9月期は前年同期に比べ実質32.0%の増加となっている。また、平成16年10～12月期以降16期連続して実質増加となっている（図8）。

図8 カメラの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移

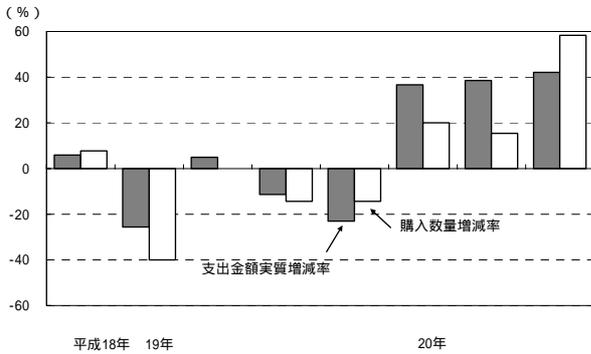


2 その他注目される品目の動き

電気洗濯機

電気洗濯機の支出金額は、平成20年1～3月期以降3期連続して前年同期に比べ30%以上の実質増加となっており、20年7～9月期は実質42.1%の増加となっている。また、購入数量は前年同期に比べ58.3%の増加となっている（図9）。

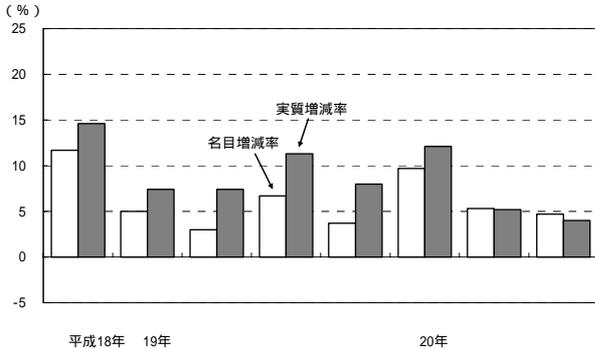
図9 電気洗濯機の四半期別支出金額及び購入数量の対前年同期増減率の推移



携帯電話通信料

携帯電話通信料は、平成20年7～9月期は前期に比べ増加幅が縮小したものの、引き続き前年同期に比べ実質増加となっており、実質4.0%の増加となっている（図10）。

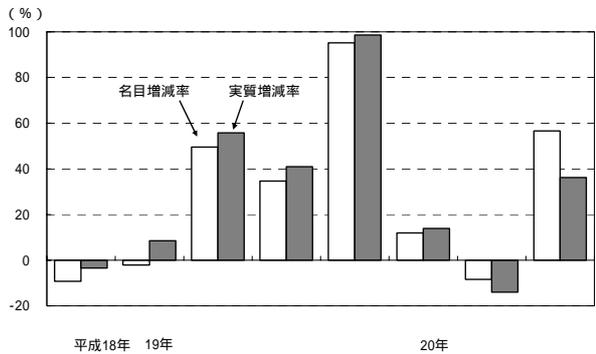
図10 携帯電話通信料の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



携帯電話

携帯電話<sup>注3)</sup>は、平成20年4～6月期は前年同期に比べ実質減少となったものの、20年7月にタッチパネル式の携帯電話が販売されたこともあり、20年7～9月期は実質36.2%の増加となっている（図11）。

図11 携帯電話の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移

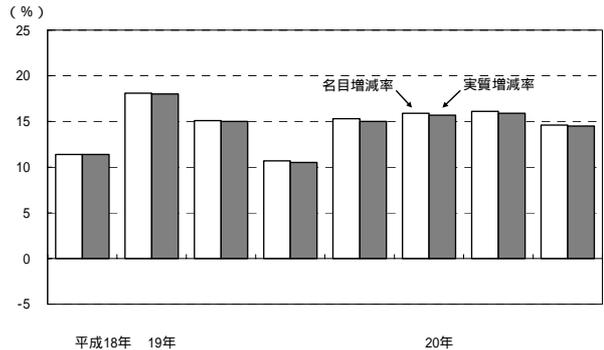


注3) 「携帯電話」とは、携帯電話及びPHSの電話機本体及び付属部品をさす。

インターネット接続料

インターネット接続料は、平成20年7～9月期は前期に比べ増加幅が縮小したものの、引き続き前年同期に比べ実質増加となっており、実質14.5%の増加となっている。また、平成18年10～12月期以降、8期連続して10%以上の実質増加となっている（図12）。

図12 インターネット接続料の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



### 非貯蓄型保険料

非貯蓄型保険料は、平成19年4～6月期以降、増加幅は縮小傾向にあるものの、引き続き前年同期に比べ実質増加となっており、20年7～9月期は実質2.1%の増加となっている（図13）。

図13 非貯蓄型保険料の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移

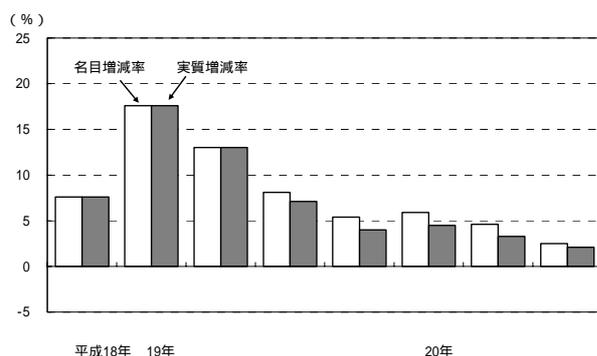
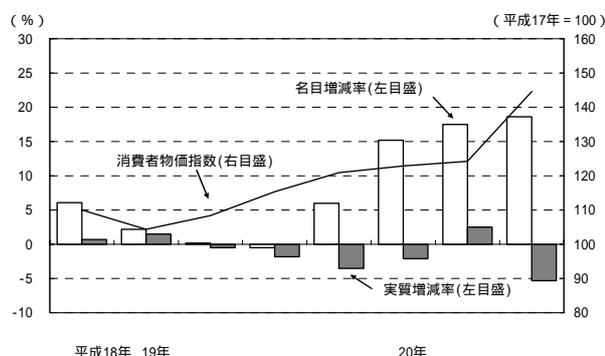


図14 ガソリンの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



平成19年10月から20年9月までの1年間における1か月当たり平均支出金額を、地方別に全国平均に対する倍率で比較すると、関東や近畿といった大都市が集中している地方では全国平均よりも低くなっている。また、北海道及び沖縄は全国平均と同水準であるが、他の地方では全国平均よりも高くなっている（表1）。

## 最近の家計をめぐる事象

### 1 原油関連品目の動き

原油価格の高騰により、価格が上昇しているガソリン及び灯油について、支出金額の推移をみると、次のようになっている。

#### ガソリン

ガソリンは、平成20年4～6月期は20年4月1日からのガソリン税（揮発油税及び地方道路税）のいわゆる暫定税率の期限切れによる値下げがあったことなどから実質増加となったが、20年7～9月期は暫定税率再適用後の更なる価格の上昇により、前年同期に比べ名目18.6%の増加、実質5.3%の減少となっている（図14）。

表1 ガソリンの地方別1か月当たり支出金額（平成19年10月～20年9月）

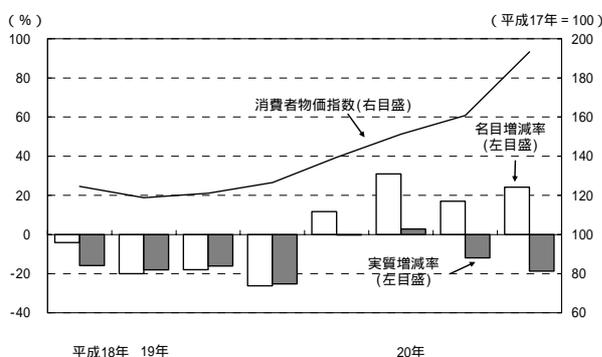
地方	支出金額 (円)	全国平均に対する倍率
全国	6,756	1.0
北海道	6,907	1.0
東北	9,266	1.4
関東	5,722	0.8
北陸	9,263	1.4
東海	8,165	1.2
近畿	5,172	0.8
中国	7,839	1.2
四国	8,056	1.2
九州	7,243	1.1
沖縄	6,776	1.0

(注) 平成19年10月～20年9月の支出金額は、各四半期を合計したのから算出している。

灯油

灯油は、平成19年10～12月期から価格が更に上昇したことなどにより、前年同期に比べ4期連続して名目増加となっている。平成20年7～9月期は、価格が前期に比べ20.2%上昇し、前年同期に比べ名目24.2%の増加、実質18.7%の減少となっている（図15）。

図15 灯油の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



平成19年10月から20年9月までの1年間における1か月当たり平均支出金額を、地方別に全国平均に対する倍率で比較すると、北海道、東北及び北陸で全国平均よりも高くなっている（表2）。

表2 灯油の地方別1か月当たり支出金額（平成19年10月～20年9月）

地方	支出金額 (円)	全国平均に対する倍率
全国	2,028	1.0
北海道	8,359	4.1
東北	5,815	2.9
関東	1,305	0.6
北陸	3,643	1.8
東海	1,367	0.7
近畿	895	0.4
中国	1,817	0.9
四国	1,810	0.9
九州	1,373	0.7
沖縄	551	0.3

(注) 平成19年10月～20年9月の支出金額は、各四半期を合計したのから算出している。

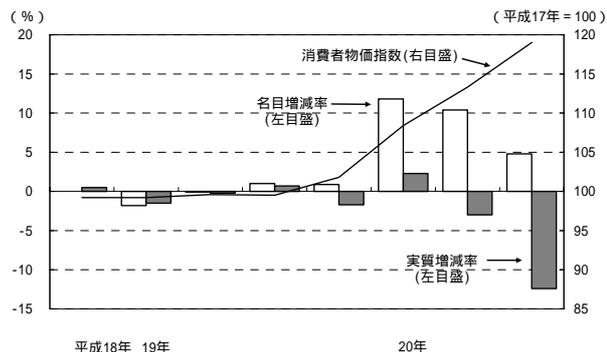
2 価格が上昇した主な品目の動き

原材料費の高騰もあり、様々な商品やサービスの価格の値上げが実施されている。価格の上昇が世帯の購入に影響したとみられる品目についてみると、次のようになっている。

食パン

食パンは、価格が前期に比べ4.5%上昇した平成20年4～6月期に引き続き、20年7～9月期は価格が前期に比べ5.0%上昇したこともあり、前年同期に比べ名目4.8%の増加、実質12.4%の減少となり、前期に比べ実質では減少幅が大幅に拡大している（図16）。

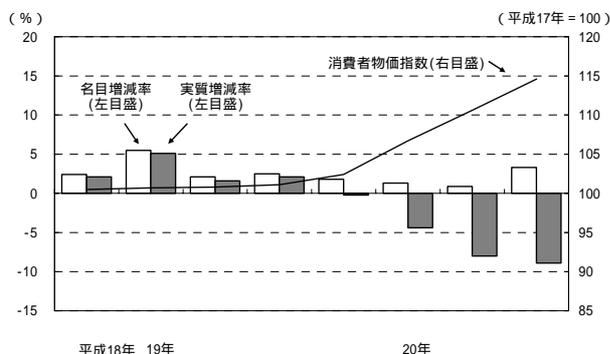
図16 食パンの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



他のパン

他のパンは、価格が前期に比べ3.7%上昇した平成20年4～6月期に引き続き、20年7～9月期は価格が前期に比べ3.6%上昇したこともあり、前年同期に比べ名目3.3%の増加、実質8.9%の減少となり、前期に比べ実質では減少幅が拡大している（図17）。

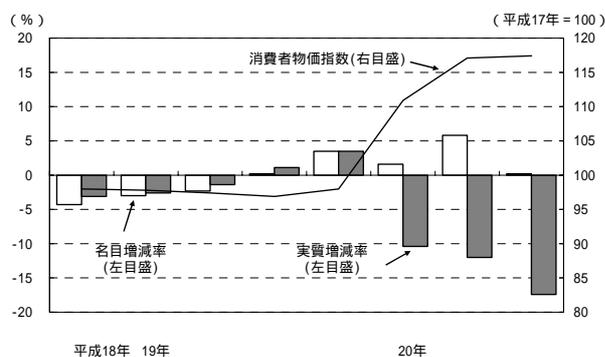
図17 他のパンの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



カップめん

カップめんは、価格が前期に比べ5.6%上昇した平成20年4～6月期に引き続き、20年7～9月期は価格が前期に比べ0.3%上昇したこともあり、前年同期に比べ名目0.1%の増加、実質17.4%の減少となり、前期に比べ実質では減少幅が拡大している(図18)。

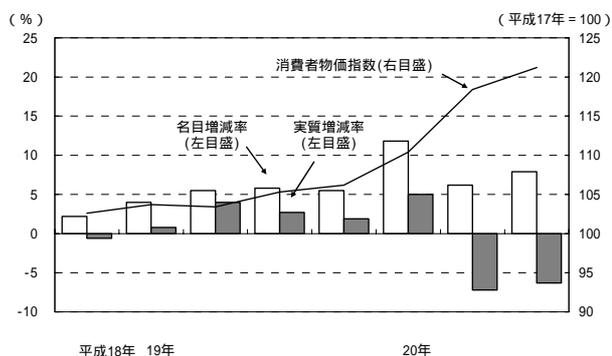
図18 カップめんの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



チーズ

チーズは、価格が前期に比べ7.2%上昇した平成20年4～6月期に引き続き、20年7～9月期は価格が前期に比べ2.4%上昇したこともあり、前年同期に比べ名目7.9%の増加、実質6.3%の減少となっている(図19)。

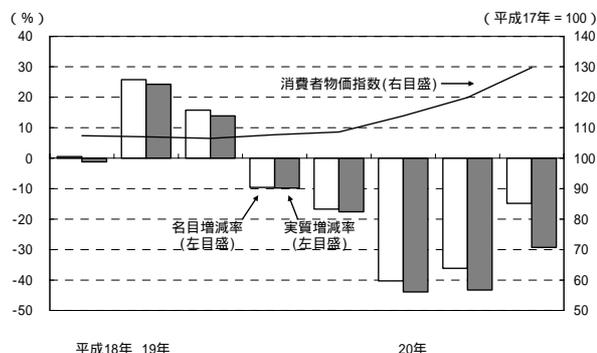
図19 チーズの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



うなぎのかば焼き

うなぎのかば焼きは、価格が前期に比べ5.3%上昇した平成20年4～6月期に引き続き、20年7～9月期は価格が前期に比べ8.3%上昇したこともあり、前年同期に比べ名目14.8%の減少、実質29.3%の減少となっている(図20)。

図20 うなぎのかば焼きの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



3 今年の猛暑及び昨年の記録的な残暑の影響

梅雨明けが大幅に遅れた平成19年に比べ、20年7月は東・西日本を中心に猛暑で晴天が多かった。しかし、それ以降は「ゲリラ豪雨」と呼ばれる局地的な大雨に見舞われるなど降水量が多く、記録的に厳しい残暑であった平成19年と比べると低温であった。そこで、平成20年7月の猛暑及び19年の残暑が、支出の増減に影響を与えたとみられる主な品目等について、20年7～9月期の動きをみると次のようになっている(表3)

表3 今年の猛暑及び昨年の記録的な残暑により影響を受けた主な品目等の実質増減率(平成20年)

	7月	8月	9月	7～9月期
食料				
乾うどん・そば	3.0	11.1	-23.1	3.0
牛乳	-6.3	-9.8	-11.2	-9.1
アイスクリーム・シャーベット	24.5	-11.3	-16.5	-1.8
飲料	8.3	-7.6	-7.2	-2.3
ビール	4.5	-15.5	-18.7	-9.4
発泡酒	4.7	10.4	5.6	7.0
他の酒	41.4	26.5	29.3	32.1
光熱・水道				
電気代	1.4	10.0	-5.3	1.8
家具・家事用品				
エアコンディショナ	139.1	-7.6	11.1	49.5
他の冷暖房用器具	40.2	-23.9	-40.8	-3.2
布団	14.1	37.9	184.6	85.5
その他の消費支出				
浴用・洗顔石けん	11.8	0.3	2.9	4.8
化粧クリーム	26.7	-16.3	11.1	5.2

- (注) 1. 乾うどん・そばは冷麦，そうめんを含む。  
 2. 他の酒はいわゆる第3のビールを含む。  
 3. 他の冷暖房用器具は扇風機を含む。  
 4. 化粧クリームは日焼け止めクリームを含む。

アイスクリーム・シャーベット

平成20年7月は、前年同月に比べ実質24.5%の増加であったのに対し、8月及び9月は実質減少となり、7～9月期でみると、前年同期に比べ1.8%の実質減少となっている。

飲料

平成20年7月は、前年同月に比べ実質8.3%の増加であったのに対し、8月及び9月は実質減少となり、7～9月期でみると、前年同期に比べ2.3%の実質減少となっている。

ビール、発泡酒及び他の酒

ビールは、平成20年7月は前年同月に比べ実質4.5%の増加であったのに対し、8月及び9月は実質減少となり、7～9月期でみると、前年同期に比べ9.4%の実質減少となっている。

一方、発泡酒及びいわゆる第3のビールを含む他の酒は、平成20年7月から9月までの各月いずれも前年同月に比べ実質増加となっている。特に他の酒は、平成20年7月は前年同月に比べ実質41.4%の増加となり、8月及び9月も実質増加となったが、増加幅は7月と比べると縮小した。

エアコンディショナ

平成20年7月は、前年同月に比べ実質139.1%の増加であったのに対し、8月は実質減少となり、9月は再び実質増加となったが増加幅は7月と比べると大幅に縮小した。平成20年7～9月期でみると、前年同期に比べ49.5%の実質増加となっている。

### その他の品目

冷麦やそうめんを含む乾うどん・そば、電気代<sup>注4</sup>、布団、浴用・洗顔石けん及び日焼け止めクリームを含む化粧品クリームは、平成20年7～9月期は前年同期に比べ実質増加となっている。一方、牛乳及び扇風機を含む他の冷暖房用器具は、平成20年7～9月期は前年同期に比べ実質減少となっている。

注4) 電気代の支払いについては、請求やメーターの検針があった日ではなく、調査世帯が実際に支払った日(口座振替の場合は口座振替日)に家計簿に記帳されるため、利用月と支払月が1か月ずれることになる。これらの見方については、「家計調査の結果を見る際のポイント」(下記URL)No.3を参照されたい。  
<http://www.stat.go.jp/data/kakei/point/index.htm>

## 4 その他家計をめぐる事象

### 北京オリンピックの開催

平成20年8月8日～24日に北京オリンピックが開催され、日本は計25個のメダルを獲得した。また、新素材の水着が話題となった。

平成20年7～9月期は、スポーツ用品が前年同期に比べ10.8%の実質増加、スポーツ施設使用料が前年同期に比べ10.8%の実質増加となるなど、スポーツ関連の支出が好調であった。

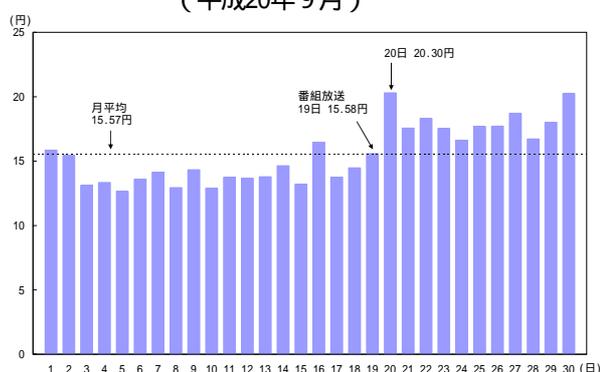
### 食の安全をめぐる問題の発生

残留農薬やカビ毒が検出されるなどした事故米の不正規流通や、海外で生産された食品原料へ人体に有害な物質であるメラミンの混入など、相次ぐ食品安全問題により、消費者の食品衛生に対する不安が広がった。

### バナナの購入

平成20年9月にバナナに関するダイエット番組がテレビ放送された。そこで、平成20年9月のバナナの購入金額を日別に見ると、番組の放送があった19日は15.58円であったが、翌日には20.30円に増加し、その後も月平均より高い水準で推移している(図21)。

図21 バナナの日別支出金額の推移  
(平成20年9月)



(平成20年11月28日 作成)